



市民の皆さんのお産を守り続けます

高橋 秀身 副院長

(元産婦人科部長)

お産にも危険はあります

日本での出産の安全性は世界トップクラスです。自分が死ぬかも知れない¹と思ってお産に臨む人はまずいけません。赤ちゃんを失うかも知れない²と思ってお産に掛かる人もいないでしょう。昔なら、と言っても昭和の初期までは、「お産は女の寿命定め³」と言っただけで危険でした。

そもそも妊娠や出産は、野生動物と同じように、生物としての自然淘汰が最も端的に現れる時期と言われます。10人の子を産んで3、4人育てば良しと言ふような状況で、先輩たちは自然淘汰と闘い、治療法や治療手技が進んだこともあって、妊産婦死亡率が過去50年余りで50分の1以下(2007年で10万人当たり約3人)、新生児死亡率も今や世界最低(2004年で1000出生当たり5.5人)になりました。

しかし、不幸にしてお母さんが亡くなる事態に直面すれば、ご家族は、医療側が述べる「不可抗力」という考え方が許せず、「納得のいく説明をしる」「土下座して謝れ」「子を親に返せ」と怒号が飛びます。医師を責めたくなるのは自然な気持ちだと思いますが、とっさの判断に故意や悪意がある訳も無く、プロとしての判断や処置を信用して欲しいと思います。「お産は決して安全なものではない⁴」ことを分かってください(1)。

産科医が減っています

労働時間が長く、医療訴訟が多い産科。特に中小規模病院の産科は崩壊への道をたどっています。また、2004年から新臨床研修医制度⁵が始まり、大学からの医師派遣が大変厳しくなりました。大学の医局は人員が足りず、医師の派遣ができないどころか、派遣している医師を引き上げ、それらの医師で超多

忙な診療・研究・教育面をカバーしています。このため、産婦人科に限らず、多くの科の医師が引き上げられています。

それでも、市立総合病院は医師の人数面でかなり踏ん張っている方です。むしろ大館市民は「恵まれている」方です。昨今、お産を扱わなくなった病院、科を廃絶する病院がいかに多いかご存じでしょうか。日本産婦人科学会の調査(2005年)では、全国で5千から6千あった分娩施設は約3千に減少、お産を扱う医師も1万人から8千人以下に減少しています。市内にお産できる施設が無く、時間を掛けて遠くまで通院したり、アパートを借りてお産をしたりというケースも出てきています。

里帰り分娩

県内でも、北秋・鹿角地区は、産科医が極端に少ない地域です。一人の医師の分娩取り扱い数は、県北は163件ですが、大館・北秋田地区に限れば202件でした。対して、県央は109件、県南は126件です(県医務薬事課2005年調べ)。

そのようななか、秋田大学から扇田病院への産科医派遣が途絶えたのは2006年8月のこと。理由は前述した大学のスタッフ不足です。当時、総合病

院産婦人科では分娩数は年間300件くらいで、その数以上の入院が必要な婦人科の患者さんがいました。人員もベッドもいっぱいいっぱい。200件以上のお産の「上乗せ」は正直不安でしたが、我々は覚悟を決めました。我々を派遣する弘前大学の意地もありました。何としても、大館市民のお産だけは意地でも守って見せる⁶。その状態では、里帰り分娩を引き受ける余裕は無かったのです。

また、里帰り分娩は、決定的に危険性が高いことが多いというのも事実です。以前の当科の集計でも、即入院となる妊婦さんが、地元の妊婦さんと比べると倍近くでした。

昨年4月からは、お産に関わる医師が1人増え3人になりました。派遣元の弘前大学も医師不足でしたが、精いっぱいの工面をしてくれました。それでも里帰り分娩を引き受けるベッドの余裕が無く、未だにお断りしている現状です。嫁いだ娘と久々に一緒に暮らし、孫の誕生を目の前で迎えたいと願う親御さんの気持ちには十分に分かりますから、本当に申し訳ない気持ちです。昨年一年間の分娩数は508件でした。私たちスタッフは、使命感を持って、市民の皆さんのお産を守り続けます。

病院からのお知らせ

駐車場が有料になります

4月1日から、駐車場が有料となります(外来受診者は、手続きすれば無料です)。

駐車場

病院正面に向かって左右の二つと北側の、合わせて3カ所が病院駐車場です。従来使用していた、神経精神科駐車場、田町球場周辺駐車場は、閉鎖されます。

利用方法

ゲートの前で駐車券を取って入場します。出場時には、駐車券を精算機に差し込み、表示された金額を支払うとゲートが開き出場できます。

料金

入場後、最初の30分までは無料。その後は、1時間ごとに100円掛かります。

外来受診者の場合

診察終了後、駐車券を窓口に出してください。手続き後、1時間以内に出場すれば無料になります。

休日夜間急患センター利用者は、センターで無料になる手続きをします。

問 市立総合病院総務課

☎42-5370



¹ 現産婦人科医が記したブログ「なののつぶやき」では、医師の心情と勤務状態がよく分かります。興味のあるかたは、[なののつぶやき](#)で検索してみてください。